

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

「高知市精神障害者
アウトリーチ支援事業について」

高知市保健所 健康増進課

目的

精神疾患が疑われる未治療者や精神科医療の中止者等が入院になることなく、在宅のまま安心した暮らしを実現することができる。

事業概要

精神科医療機関1か所に事業委託(3年)

【事業内容】

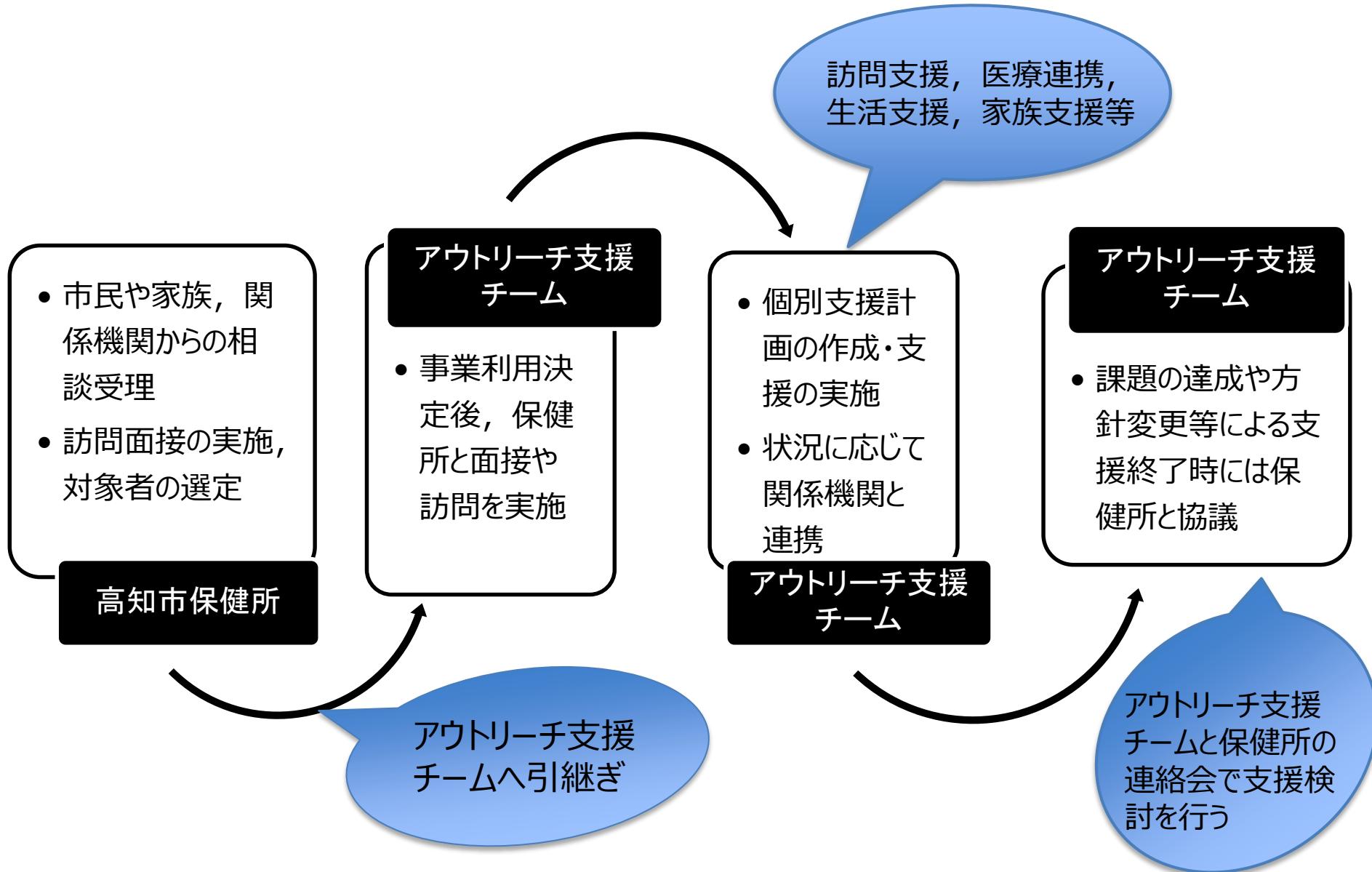
- ・高知市アウトリーチ支援チーム
(精神保健福祉士・看護師・薬剤師・作業療法士・医師の専門職)が本人や家族の希望を伺いながら 支援計画を作成。支援計画に基づき訪問や電話相談を実施
- ・支援期間は原則6ヶ月
※必要時、支援期間の短縮・延長が可能

【事業対象者】

現在高知市に居住する方で、

- ① 精神疾患が疑われる未受診者
- ② 精神科医療の中斷者
- ③ ひきこもりの精神障害者
- ④ 精神科病院への入退院を繰り返す者
- ⑤ 精神疾患による長期入院後の退院者
- ⑥ 精神障害等が理由で地域から孤立している者

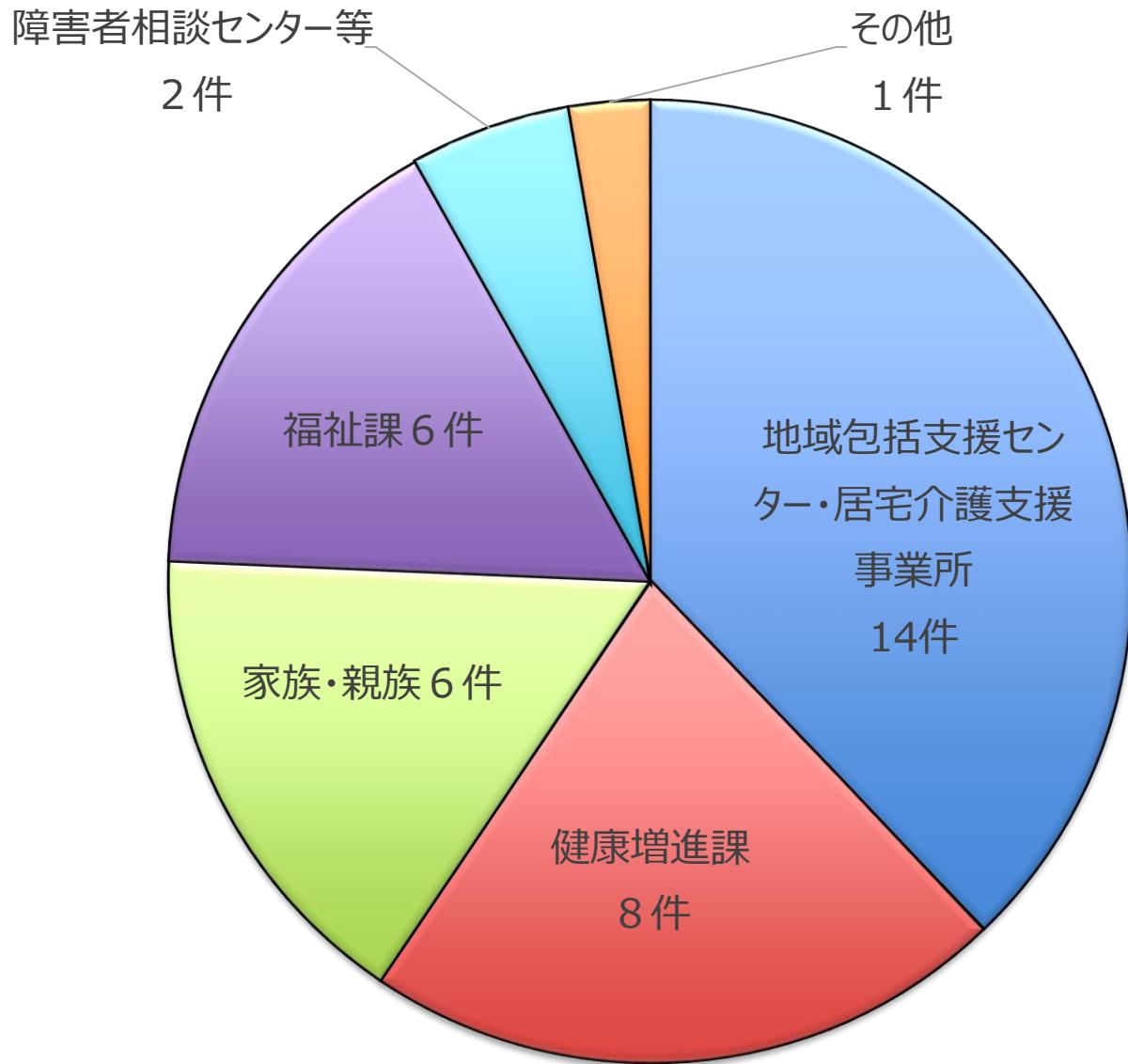
支援の流れ



令和6年度実績

- 事業利用相談：37件
- 支援実施：16件
(内、保健所が以前より関わっていた件数6件)
- 支援終了：3件
(終了理由:本人の拒否等)
- 繼続支援：13件

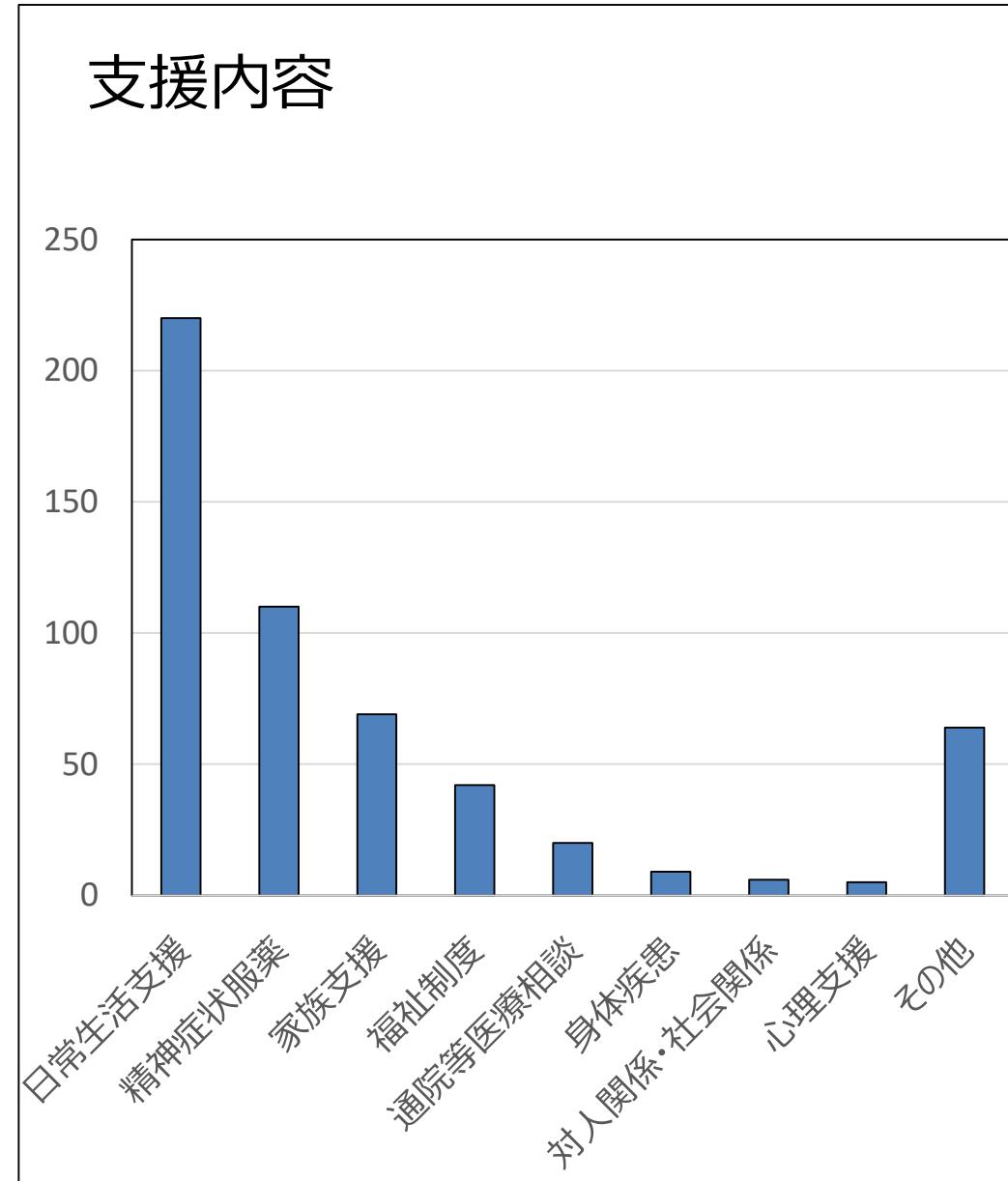
事業利用相談37件の相談元



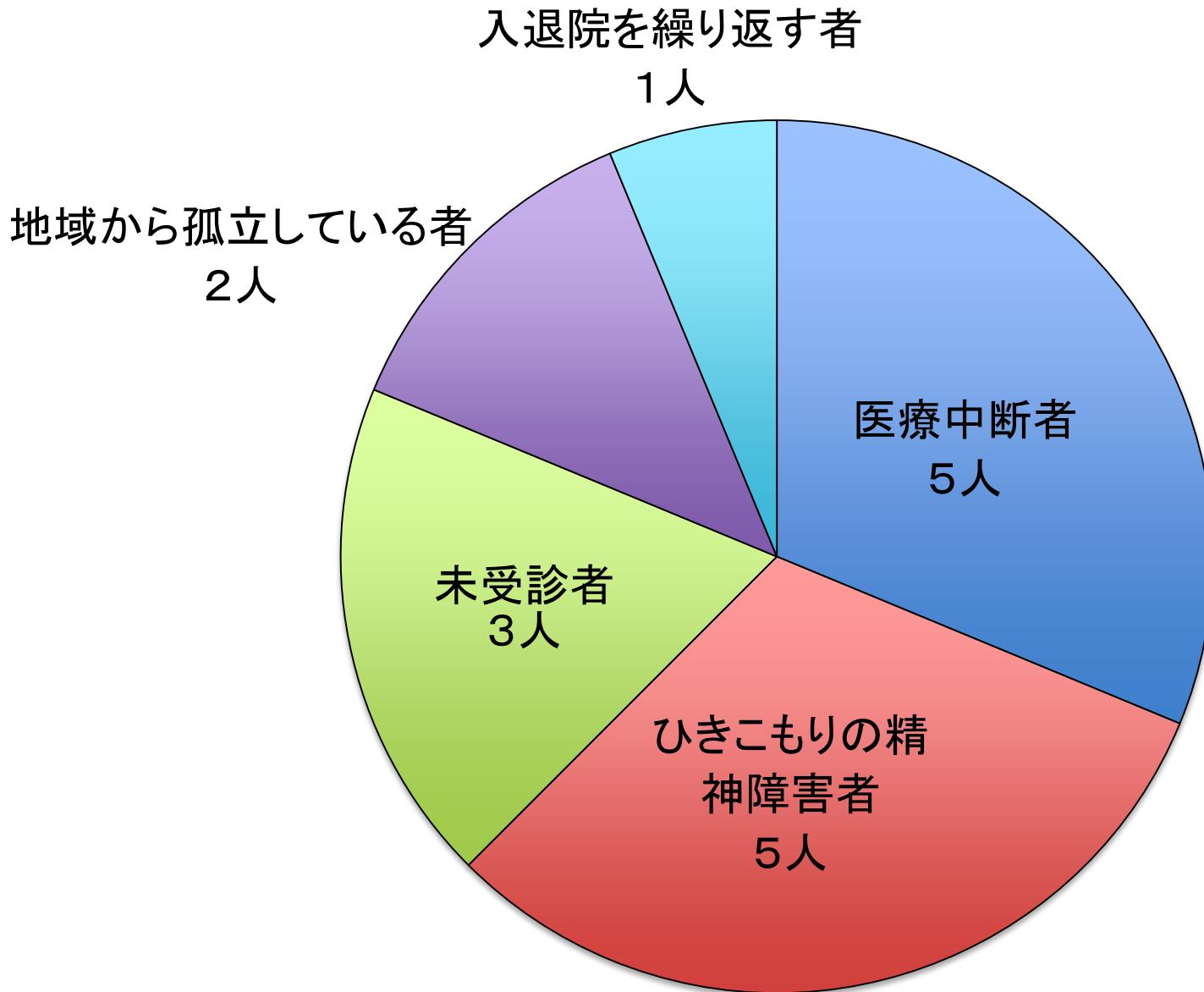
支援実施者(16人)

支援方法	実人数	延件数
電話相談	12	166
来所相談	1	1
訪問支援	14	378
(うち同行支援)	10	205
合計	16	545

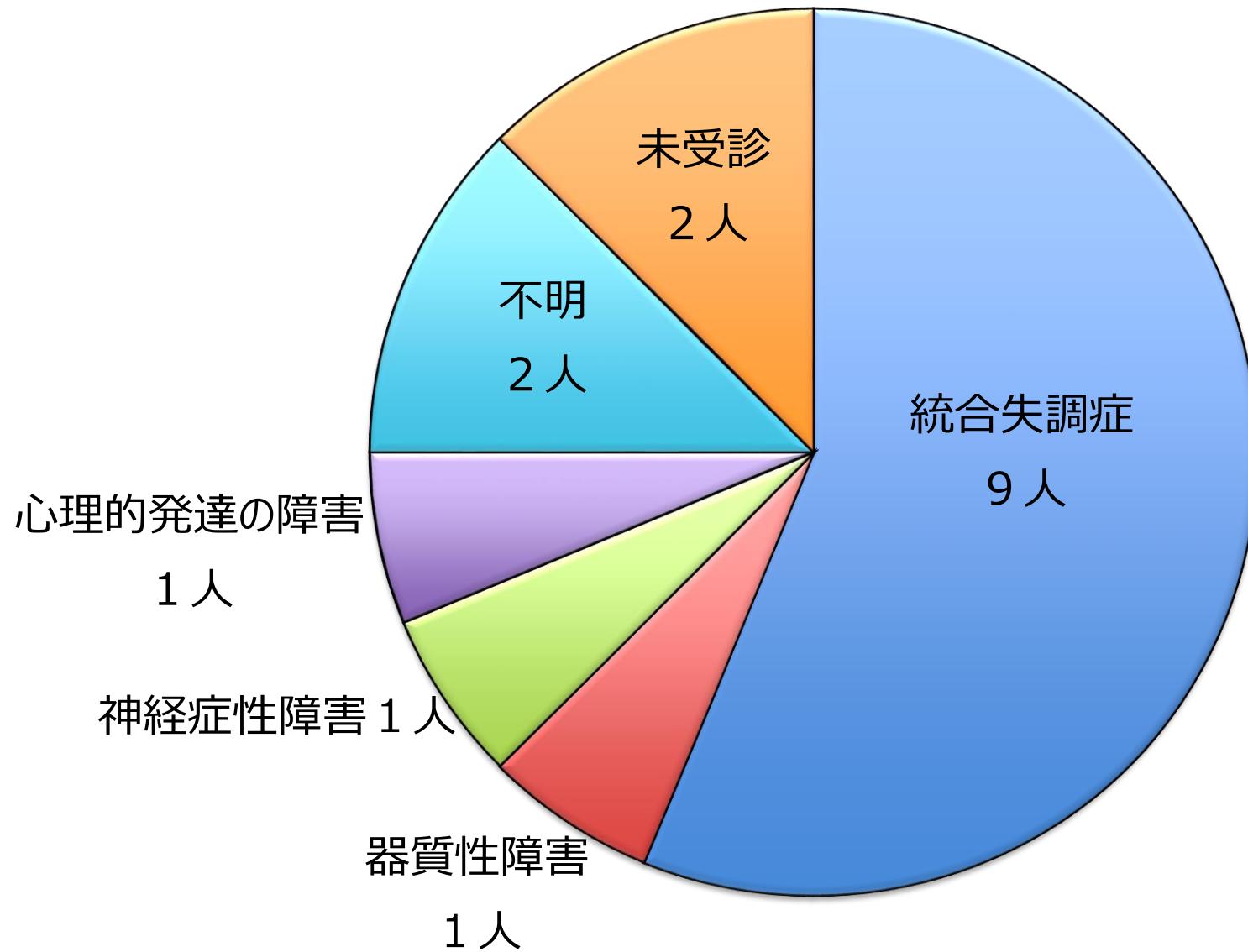
※対象者 1人あたりの訪問回数： 27回



支援実施者(カテゴリー)

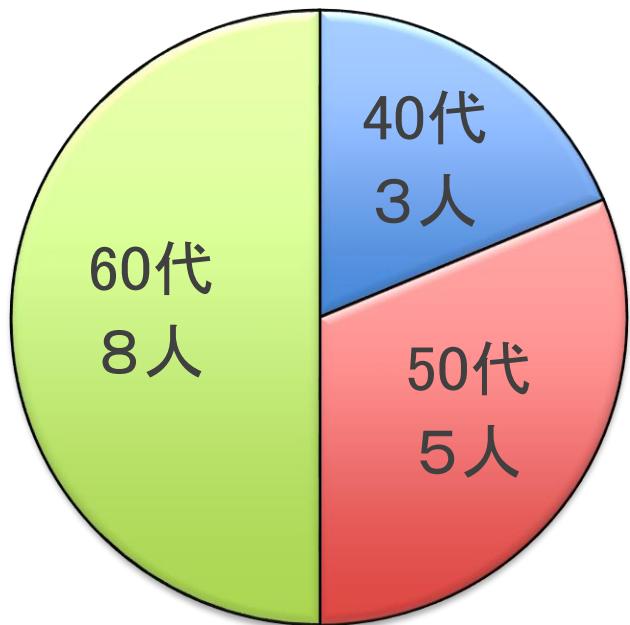


支援実施者(主たる精神障害)

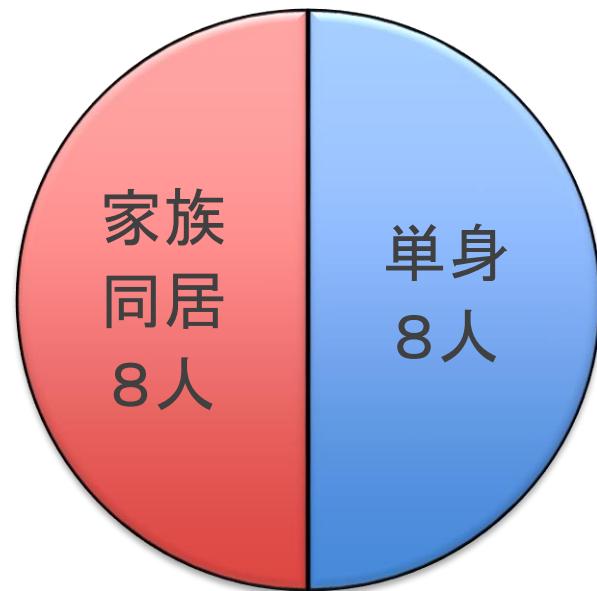


支援実施者(年代・生活状況)

年代



生活状況



平均年齢：57.7歳

事例紹介～地域から孤立した40代女性～

支援前の状況

- ・高齢の母と2人暮らしだったが、母が入退院を繰り返し、1人暮らしとなる。
- ・本人は、1人での生活が困難な状態で、民生委員や地域住民は精神症状の悪化や火の不始末等を心配していた。
- ・精神科通院は、中断していたが、訪問看護は時折訪問していた。

- 母の支援機関や障害者相談センターからアウトリーチ支援事業の依頼があった。

アウトリーチ支援事業の内容

医療

- ・自宅に残っていた薬を飲むように勧めつつ受診への意欲喚起をし、受診同行。

生活

- ・金銭管理：母の支援者に代わって管理する。
- ・生活環境：自宅の掃除、引っ越し準備、施設見学。
- ・日中活動へのつなぎ。

支援後の変化

- ・ 医療が再開し、精神症状が落ち着く。
- ・ 母との2人暮らしに向けて、母の支援者らと生活支援を行う。その後母が施設入所の方向となつたため、支援を組み直し、単身自宅生活とグループホームの2軸で検討

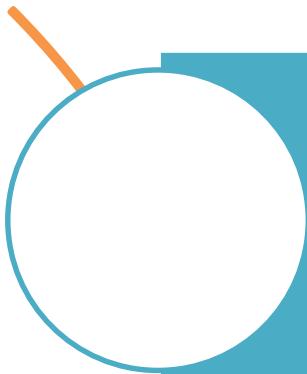
地域生活の選択肢が広がった

アウトリーチ導入による成功の要因

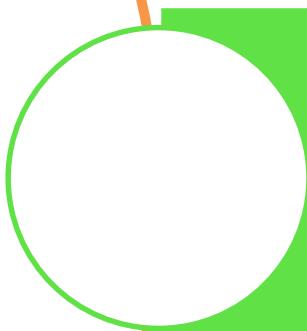
- ・ 服薬支援や受診勧奨することで、治療が再開でき、精神症状が安定した。
- ・ 母の支援機関や地域住民との関わりなど、地域とつながる支援体制の構築ができた。
- ・ ヘルパーの利用やグループホームの見学等をすることで自立にむけた準備ができた。

既存の医療・福祉サービスにとらわれず、
目の前の本人の課題に寄り添う支援

1年目を振り返って



委託機関にアウトリーチ支援を円滑に行ってもらえるような取組を重点的に行った。



既存のサービスでは関わりづらい課題にも対応することで治療中断者が医療や福祉サービスにつながることができた。



事業の周知を関係機関等に行い,利用につなげることができたが,緊急時対応を求める相談もあった。

まとめ

地域生活支援の選択肢の幅が広がり、地域で支えることができるようになってきました。

治療中断者・その可能性がある者、入退院を繰り返す者、医療だけに繋がっている者の生活の質の向上等には、アウトリーチ支援が有効です。

アウトリーチ支援を通じ、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築をめざしていきます。